

## 美術科の各学年の目標はどう変わったのか。

学年目標は、教科の目標の実現を図るため、生徒の発達の特性を考慮し、各学年における具体的な目標として示している。

学年の目標は、(1)～(3)の3点にまとめて示している。

### 【新学習指導要領】

- (1) 美術の学習への関心や意欲、態度に関する目標
- (2) 表現に関する目標
- (3) 鑑賞の能力に関する目標

この部分は変わっていない。

具体的には、(1)は、「A表現」及び「B鑑賞」を指導する中で、一体的に、総合的に育てていくべきものである。したがって、表現及び鑑賞の能力を育成する際には、それらの能力を身に付けようとする意欲や態度を合わせて育てることが大切である。

**(1)は、学習を通して育てる関心や意欲、態度に関する目標**である。  
 中学校美術科で育成する関心や意欲、態度とは、**単に造形的な行為をすることが面白い、楽しいといったものだけではない。「A表現」及び「B鑑賞」の各指導事項に関して、そこに示されている資質や能力を発揮しようとしたり、身に付けようとしたりすることへの、関心や意欲、態度のことである。**

一人一人の生徒が完成への目標をもち、形や色彩などでよりよく創造的に表現しようと没頭し、創意工夫を重ねる誠実な努力の中で高められるものである。そして、美術科の学習を通して育成された関心や意欲、態度は、美術を愛好していく心情や、心豊かな生活を創造していこうとする意欲や態度につながっていくことを目指している。

**(2)は、学習を通して育てる表現の能力に関する目標**である。  
**表現の能力とは、具体的には、発想や構想の能力と創造的な技能**であり、目標の(2)は、この二つから構成している。各学年とも**目標の前半部分**は、対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに**発想や構想をする能力に関するもの**である。**後半部分**は、発想や構想を基に創意工夫し美しく**表現する技能に関するもの**である。

表現の能力は、発想や構想の能力と創造的な技能とが相互に関連しながら育成されていくことになる。そのため、創造的な技能を働かせ実際に形にしていく中で発想や構想を再度見直したり、構想を練る中で新たな表現方法を考えるなど、相互に関連を図りながら高めていくことが重要である。

**(3)は、学習を通して育てる鑑賞の能力に関する目標**である。  
 鑑賞の学習においては、自然や生活の中の造形や、美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げることにより、**自分一人で見ていたのでは気付くことができない視点やとらえ方、価値などに気付くことが大切**である。

そのためには、他者と意見を述べ合うなどして形や色彩、材料などを様々な視点でとらえたり、作品などがつくられた背景、文化についての基礎的な知識などを学んだりすることも重要である。

目指すところは、知識なども活用しながら自分の見方や感じ方を大切にして身の回りの造形や作品のよさや美しさなどを豊かにとらえ、生活の中の美術の働きや文化についての理解を深め、幅広く味わうことのできる鑑賞の能力を育成することである。

学年の系統としては、第1学年では特に表現及び鑑賞の基礎となる資質や能力の定着を図ることを重視した。

下線部が改善点である。

【新学習指導要領】

【現行学習指導要領】

第1学年	第1学年
<p>(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。</p> <p>(2) <u>対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、心豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能</u>を身に付け、<u>意図に応じて</u>創意工夫し美しく表現する能力を育てる。</p> <p>(3) <u>自然の造形</u>や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、<u>美術文化に対する関心を高め</u>、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。</p>	<p>(1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。</p> <p>(2) <u>対象を深く観察する力、感性や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や基礎的技能</u>を身に付け、<u>多様な表現方法や造形要素に関心をもち</u>、創意工夫し美しく表現する能力を育てる。</p> <p>(3) <u>自然</u>や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、よさや美しさなどを感じ取る鑑賞の能力を育てる。</p>

第2学年及び第3学年においては、第1学年で身に付けた資質や能力を更に深めたり、柔軟に活用したりして、創造活動の能力をより豊かに高めるように構成している。

我が国の美術についての学習を重視することから、第1学年に「美術文化に対する関心を高め」の文言を加えた。

第2学年及び第3学年	第2学年及び第3学年
<p>(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。</p> <p>(2) <u>対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め</u>、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。</p> <p>(3) <u>自然の造形</u>、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。</p>	<p>(1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。</p> <p>(2) <u>対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め</u>、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。</p> <p>(3) <u>自然</u>、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。</p>

第2学年と第3学年は、学校や生徒の学びの実情に応じて、より主体的、創造的な活動を工夫できるように学年の目標をまとめて示している。指導に際しては、2学年間を見通し、学年間の関連を図るとともに、各学年段階で必要な経験などを配慮しながら、それぞれの学年にふさわしい学習内容を選択して指導計画を作成し、目標の実現を目指す必要がある。